

## = 2020年 HG競技委員会議事録 =

開催日：2021年10月9日（土）15:00～20:00

場所：NASAショップ2階

参加者：牟田園（委員長、司会進行）、板垣、鈴木（ゆ）、鈴木（あ）、田中（議事録）、大沢（理事）

オブザーバー：櫻井、箕谷、名草

計9名

### 【前回の持ち帰り事項】

（大沢）

- ・航空スポーツ室長に対して、2021年の日本選手権（和歌山）の表彰式への参加を事務局経由で依頼する  
→航空スポーツ室長、事務局の松崎さん、JHF安田会長、桜井さんが足尾日選最終日に来訪予定

（牟田園）

- ・体験会の承認は競技委員会以外（スクール事業、振興、安全性）に移管できないか委員長会議で提議する  
→3月に井上さんに打診。ペンディング
- ・ライブトラッカー導入に伴うルール改訂の文言を決め、共有する  
→ルール反映済み
- ・ハングシリーズ費の徴収ルールの変更をJHF事務局および大会主催者に広報し、HPを更新する  
→後払いし、HP更新済み。大会主催者への広報を促進する。
- ・ルール変更の内容を事務局経由で12月中に理事会に提出する  
→理事会の承認を得てからルール変更を実施すること。  
今後は広報前に理事会へ承認を打診すること。
- ・公式立会人についてCivlのルールを確認する  
→Section7を確認。  
8.OFFICIAL OBSERVERS 公式立会人の認定はNAC（JAA）に権限がある。
- ・フライトコンテストへのリーグ制導入がシステム的に対応可能かどうか検討する  
→次回対応
- ・競技委員会のページに学連フライトコンテストページへのリンクを貼る  
→対応済
- ・ライブトラッカーでQNHの設定が可能かどうか開発者に確認する  
→対応済み
- ・競技委員会の説明ページをHPに掲載する  
→鈴木（ゆ）作成→鈴木（あ）確認後、最終案が未提出  
追って対応する（鈴木あ）
- ・コロナ特別対応の方針変更を事務局に連絡する  
→対応を実施。ハング、パラ併せてJHFとしてガイドラインに沿った対応を検討した。
- ・大会資料の置き場所をGoogleドライブに変更する  
→変更済み。

(板垣)

- ・公式立会人について海外事情を確認する  
→レジーナに確認したが、海外でもあまり積極的に活用されていないよう
- ・パイロット証でも大会保険がカバーされるかどうか事務局に確認する  
→確認済み。大会保険は適用される。
- ・パイロット証でXCタスクを実施することに規則上の問題がないかスクール事業委員会（北野さん）に確認する  
→概ね10km程度にサブランディングを設けることで問題ないと確認した。（制度委員会中瀬さんより）

(田中)

- ・大会申請管理の運用方法（リマインド）を見直す  
→現状出来ていない。再検討
- ・公式立会人のルールの原案を作って理事会を通して制度委員会に持ち込む  
→制度委員会の中瀬さんと話をしたが、ルールの概要版はできている。細かなところは決めきれていない  
→ハング、パラと合わせてルール策定する必要があり、JHF理事会に必要性を再度提示することが必要
- ・週末大会の開催を促進する  
→未対応、大会申請ルールの緩和などを考えるべき

(鈴木由)

- ・大会受付時のシリーズ登録情報アップデートのやり方を見直す  
→未対応。今年中に方法を検討

(鈴木あ)

- ・スポーツクラスでも緊急連絡カードを運用する  
→対応済み
- ・競技委員会の説明ページの文言を精査する  
→説明文章を作成する
- ・コロナ特別対応の文言を見直す  
→対応済み
- ・ルール改定  
→ハングシリーズの開催最低日数を撤廃  
→QNHによる大会運営  
→飛行禁止空域でNGになった場合のGPSの再提出を認める  
→日本選手権の成立条件の見直し（クラス1、クラス5ともに）  
→クラス1：1.2に引き下げる  
→クラス5：ハングシリーズの開催条件を満たすこと、を成立条件に追加する  
→フライトコンテストで年またぎの申請は1月1週目までにする  
→GPSへのアップロードは基本的に選手が行う  
→競技委員会で用意するケーブルをmini USB TypeB、micro USB TypeB、USB TypeCに限定して、それ以外のケーブルを必要とする選手は自前でケーブルを持ってきてもらうようにする

## 【新規議題】

### ・2024世界選手権@足尾

→クラス5の世界選手権を足尾で開催したい（板垣）

→現状準備が進められていない。一回取り下げて再検討とすることをジェイミーに報告する（板垣より）

### ・大会で使えるGPS

Civilに準拠させたい

<https://www.fai.org/page/civil-xc-instrument-accepted>

→気圧センサーが付いている機器を推奨。高度制限を判定する必要があるエリアにおいては気圧高度が測れる機器を用いること。（牟田園）

### ・文言の統一（制度委員会中瀬さんより）

### ・ハンググライディングシリーズ運営規程PDFだけど開いてみると文書の表題は

「ハンググライディング運営規定」になっています。

規程にするのが良いと思います。

[https://jhf.hangpara.or.jp/office/soran/5-3-jhf-shokitei-sakuseikanri\\_yoryo20190730.pdf](https://jhf.hangpara.or.jp/office/soran/5-3-jhf-shokitei-sakuseikanri_yoryo20190730.pdf)

↓

しかし理事会で競技委員会作成の文書に全て関与する気は無いそうです。

つまり定款・規約・規程ではなく「規則」「ルールブック」等にして頂ければ良いと考えます。

↓

「規則」で統一する（鈴木あ）

### ・GAP変更

GpsDump : 5.34 → 5.40

・ Flymaster: Support GpsLS.

・ Garmin: Updated USB access to support eTrex 32x.

・ Support downloading tracks from BlueFlyVario

FS : 2019 R1.2 → 2021 R1.2

・ 1stターンポイントを通過した後のリスタートが判定可能になった

・ タスクストップ時のスコアリング条件

ミニマムタイムの考え方を緩和し、1時間もしくはノミナルタイムの50%の競技時間が確保されていればスコアリング対象とするように変更された

・ オープンディスタンスタスクのバグが修正された

・ 複数のペナルティがあった場合の減点の順番を明確化

1. フライイング (Jump the Gun)

2. パーセンテージでの減点

3. ポイントでの減点

→2022年西富士大会で選手へ説明必要

・選手救出による点数を見直すべきでは（板垣）

→初日の点数「選手全員の平均点」となっているが、平均点以上に対応した人が飛んでいた場合にはどうなるのか？

例：ゴール近くにて降りた人がクラッシュしてレスキューした場合に、平均点では戻されてしまう可能性がある

例：各日の成績順の平均順位点（1位→30位→レスキューだったら、15位の点数）

例：セツケン順に並べた時に大会の時の順位の点数

→決定には至らなかった。「競技委員長の判断による」とあるが、ある程度の指針があると判断しやすくなるとの意見のため別途検討事項

・競技委員会で事業を立ち上げる

目的：競技レベルの向上

用途：海外有力選手の招聘、プレ世界戦の参加費補助など

内容：年度でグッズ（タオル、Welaカレンダーlikeな何か）を作って販売する、など

ハングクリニック、セミナー、レクチャーなどの実施。

案：目標金額：年間25万（海外有力選手を呼ぶ場合に50万程度用意することを目標とする）

例：参加証Tシャツを主催者の代わりに作り、利益を得る。（1枚千円程度）

→事業として立ちあげるにしても、参加賞から利益を得ることで、参加者のエントリー費を値上げすることは反対（鈴木あ

：大会の際に販売をお願いする

：各スクールで販売をお願いする

→事業費をJHFから出費してもらうことは出来ないか？（牟田園）

→JHFとして競技委員会の口座を持つことを止めた経緯が過去にあり、非常に厳しいと思われる。（大沢）

→独立口座を作って運用していくこととする。JHFや競技委員会名は不可。

→まずは初期投資の少なくて済み、参加料などを徴収することで運営できるハングクリニックなどから対応していくことがいいのではないか。

→口座管理：牟田園、事業管理：櫻井

事業名称：各人が1案ずつ提出して投票とする。

10月17日まで

・コロナ下での来年以降の公認方針

→JHFと話したガイドラインをもとに運用していくこととする。

→カテ2を必須としない？

→カテ2は必須条件は継続とする

→2日大会の場合は？

→2日大会でも、かかる経費はあまり下げられないので、カテ2を外してもエントリー費は下げづらい。

→必須のままとする

・委員の入れ替え

板垣、鈴木（ゆ）、田中が引退

櫻井、箕谷、名草を新委員に選出

→【前年度役割分担】

牟田園：委員長、HP管理

板垣：委員長補佐

田中：広報

鈴木(由)：会計

鈴木(あ)：議決管理、規則管理

→【次年度役割分担】

牟田園：委員長、議決管理、会計

鈴木あ：規則管理、立会人制度（引継ぎ）

櫻井：HP管理、競技レベル向上委員会（仮）、フライトコンテスト管理

箕谷：緊急連絡先カード、シリーズ登録管理

名草：広報

・海外獲得ポイント

シリーズランキングではなく、選抜ランキングのみに計上すべきでは（ゆーじ）

→取り下げ

・初日のセットアップ順をエントリー順にしたことはルールと違うのでは？

→ローカルルールとして競技委員会として認めたとしてOKとした。

→エントリー順とすることでエントリーがスムーズに行われたので、主催者としては今後も行いたい。（板垣、鈴木ゆ）

→フライト技術とは関係のないことでセットアップ場所が変わるとするのは賛成ではない（箕谷）

→早い段階でのエントリー者が増える（ある程度人数が来ることが想定できる）ことは運営として重要。（板垣）

→ローカルルールとして認める。主催者側の意見を尊重とする。

案：エントリー順、金払った順、遅れた人は金額増額など

・2025年世界戦以降の代表選抜ルール見直し

世界選手権の開催年の前々々年度（3年前）のランキング得点の1/2と、前々年度（2年前）のランキング得点のすべての足し算で世界選手権選抜ランキングとしている

→前々年度（2年前）の1/2と、前年度（1年前）の足し算とすべき（田中）

→ルールを変更することとする（4対1で可決）

→年度の早いうちに世界選手権が開催される場合の臨時ルールが必要。

→半年前までの大会得点を採用する？

→計上大会が重複することは無し（重複すると、重複した大会が世界選手権2大会に影響するため比重が高くなってしまう）

→計上しない大会があることは有り（国内ランキングには計上されるため）

→前々年度の1/2+前年度の世界選手権大会初日の6か月前までに完了した大会を計上とする

→大会側が正式に日程発表された初日から起算する

例：1月10日スタートだとすると、7月9日までに完了した大会が計上される

→世界戦選抜に採用された大会以降の残りの大会については世界選手権ランキングには反映されず、

国内ランキングのみの採用とする

→2025年の世界選手権選抜ルールのための、2022年からのルールが未決定

## 【追記事項】

10月9日の会議以降にメールで話し合いをして決定した内容を追記する

- ・競技委員会で立ち上げる事業の名称  
「日本ハンググライディング競技者育成プログラム」に決定
- ・2025年世界戦以降の代表選抜ルール見直し  
2022年：50%  
2023年：50%  
2024年：100%  
3年間の合計ポイントで代表を選抜する
- ・2023世界選手権の選手会長  
次期競技委員にも立候補している名草選手を指名した

## 【持ち帰り事項】

(継続議題)

- ・フライトコンテストに宣言地ゴールを追加する  
→未討論。次回以降議題
- ・ハングシリーズのポイントの有効人数の基準値を変更する（40人）  
→大会を行えていないため、今後再検討
- ・フライトコンテストへのリーグ制導入  
→未討論。次回以降議題
- ・選手ではないスタッフが集計を行うための環境づくり  
→未討論。次回以降議題
- ・フライトコンテストで高度制限があるエリアでの対応について、GPS高度での判定か、気圧高度での判定か  
エリアルールで決まっていない場合での対応  
→フライトコンテストの高度制限の測定は、GPS高度もしくは気圧高度のどちらかが違反していなければ採用とする。  
気圧高度に対するQNH補正をすることは実質不可能であることと、GPS高度計のみのフライトの場合もあるため、  
フライトコンテストの門戸を広げるという意義のため厳しいルールとはしない。

(牟田園)

- ・体験会の承認を競技委員会以外（振興）に移管する件を、井上さんと詰める
- ・ルール変更の内容について理事会承認を得てからHPに掲載する
- ・ルールの改定  
- GPSについて  
高度制限を判定する必要があるエリアにおいては気圧高度が測れる機器を用いること

(鈴木あ)

- ・競技委員会の説明ページをHPに掲載する
- ・立会人制度
- ・ルール改定
  - －文言の統一
    - 定款・規約・規程ではなく「規則」で統一する
  - －FS変更
  - －フライトコンテストの高度判定

(櫻井)

- ・競技レベル向上委員会（仮）

(板垣)

- ・2024クラスV世界選手権の足尾開催は一回取り下げて再検討とすることをジェイミーに報告する

(鈴木ゆ)

- ・大会受付時のシリーズ登録情報アップデートのやり方を見直す

(田中)

- ・大会申請管理の運用方法（リマインド）を見直す